

21年度事業報告書

特定非営利活動法人 I Loveつづき

私たちNPOがかかげる「広く市民に対し、コミュニティや地域の環境に関する情報を提供し、市民の参加を促し、まちの活性化や健全なまちづくりの為に活動を通じ、地域の発展に寄与する」というコンセプトにもとづき、環境、防災、こどもたちの育成等の例年行ってきた分野に加えて、20年度からは、「経済活動の活性化を図る活動」が加わり、経済観光局の助成事業「経済の新たな担い手創生事業」に着手し、地域の経済振興に寄与すべくスタートしました。私たちにとっては新しい分野の事業であり、いままでのネットワークとノウハウを活かし、試行錯誤しながら進めています。この事業でテレワーカーとして登録したメンバーの中から4人が私たちの活動を深く理解し、正会員へ登録し、積極的にNPO活動に参加するようになったことは、I Loveつづきにとって新しい力となっています。

さらに今年度から、いずれも理事のアイデアから発したプロジェクトとして、環境創造局の環境まちづくり協働事業「ハーブプロジェクト」、都筑区役所の委託事業「ジュニア編集局」がスタートし、多彩な活動をしていく年度となりました。

●サバイバルジュニア隊員養成プロジェクト

過去4年間開催をしてきた「サバイバルジュニア」の事業は、今年度は4年間の成果をまとめる「サバイバルジュニアハンドブック」300冊の作成を行いました。また、横浜市の危機管理セミナーで講師として招かれ、成果を報告し「サバイバルジュニア」の事業の意義を多くの人に伝えることができました。

また、4年間の活動が広まり、旭区の団体からサバイバルジュニアでやっていることを自分たちの町内会にも活かしたい、サポートしてほしいという依頼があり、出張講師をしました。このような問い合わせも多いため、ハンドブックをつくることができ、自分たちの中でも活動が整理されました。今後はより多くの人につかっていただけるよう、これらをウェブ上からもダウンロードできるように整備していきます。

支出：406,144円 NPOからのこの事業への従事者 10名

●環境にやさしいまちづくりイベント事業

「環境にやさしいまちづくりイベント」実行委員会の事務局として、4年間とりまとめてきました。定着化してきた「緑のカーテン」ではゴーヤの苗を求めて、多くの人が区役所ホールに並びました。学校、保育園などの取り組みも定着し、11月の展示会では、多くの人がこの取り組みに関心を持ち、実践していることを区民のみなさんにお知らせしました。

打ち水は今回、打ち水キャンペーン期間に6箇所の大規模なイベント会場で行われ、とくにららぽーとでは、講座をとりいれながらのキャンペーンを商業施設側から積極的に依頼され、実施しました。

キャンドルナイトは今年度、横浜市の風が吹いても消えないキャンドルスタンドをレンタルし、スローな夜を演出。ライドダウンや区民への関心も定着してきたと実感しました。今年度は1日だけでなく、キャンドルナイトウィークという期間を設け、一般家庭でのキャンドルナイトのようすをおくってもらい、フォトコンテストをおこないました。

- ・緑のカーテン～自然の力で夏を涼しく過ごす 5月～11月(発表展示まで) 2580人参加
- ・都筑を冷やせ！つづき打ち水大作戦 7月～8月 1000人参加
- ・キャンドルナイト～都筑ヨコハマ 11月28日～12月15日(キャンドルナイトイベント～キャンドル週間)

1228人参加 計 4808人参加

支出：771,685円 NPOからのこの事業への従事者 10名

●中川福祉のまちづくり～中川ふれあいフェスタ サポート

市営地下鉄中川駅舎上部にケアプラザ、老人介護施設、保育園が完成し、そのオープンと地域の交流を兼ね、中川のにぎわいづくりとしての、おまつりの企画サポートをおこないました。当日はお天気にめぐまれ多くの参加者があり、いままでの中川で行ったおまつりの中でも最高にもりあがる一日となりました。

支出 : 122,964円 NPOからのこの事業への従事者 8名

●経済の新たな担い手創生事業「ワークライフバランス向上を目指したテレワークの実施・推進」

今年度はいくつかのパートにわかれ、地域情報サイト「ウェブタウン横濱3.0」の構築と運営、作業所の商品開発、楽天サイト横濱良品館のオープン、拠点の設備の充実とシンポジウム、研修会の開催、リアルエステートの準備など具体的に事業を行ってきました。とくに横濱良品館は大きな話題となり、横浜市長との記者会見で市長自らにPRしていただき、メディアにも大きく扱われました。評価の高いこの事業を実のあるものにしていくことが今後の課題です。

また、テレワークフォーラムを中区で行い、大きな反響があり、それを機にテレワーカーの登録が増えています。NPO法人横浜コミュニティデザインラボとの連携の中で、テレワーク情報マガジンの発行も行ってきました。今後もNPO法人横浜コミュニティデザインラボとはテレワーク事業での連携を強くしていきます。

支出 : 5,379,112円 NPOからのこの事業への従事者 10名

●つづきジュニア編集局

今年度の新規事業として、つづきジュニア編集局を都筑区役所から受託しました。募集で集まった40名の小学4年生から高校1年までの子どもたちと横浜開港150周年を取材と都筑区の15周年、そして今の子どもたちからみた都筑区について取材し、ブログへのアップと、それらを統括した「つづきジュニアタイムズ」を発行しました。つづきジュニアタイムズは、都筑区内の小中学校、町内会回覧板はじめ、区内、市内の施設へ配布され、新聞等のメディアにも大きく扱われ、話題となりました。

支出 : 847,840円 NPOからのこの事業への従事者 3名

●ハーブプロジェクト

横浜市環境創造局との「環境まちづくり協働事業」において「お花のきれいな有用植物(和洋ハーブ)活用プロジェクト」という事業を行いました。

都筑区内に140以上ある公園では、公園愛護会という一般住民が公園の手入れをする制度が定着しています。ただ、様々な課題を抱えているのも事実で、その存在や活動内容などもほとんど知られていないという致命的な欠陥もあります。そこで、1年目の今年度には公園の存在自体のアピールと愛護会参加へのハードルを下げることを狙いの一つとして、花壇分科会(約34公園)を対象にハーブを含む宿根草・球根の配布を行いました。要約すると

・有用植物(和洋ハーブ)もふくめた宿根草、球根のうち、都筑区の気候風土にあったものや、花壇にふさわしいものなどを、講習会、セミナー他を通じて学び、公園での栽培をすすめ。

・株が増えたら、他の公園花壇にも株分けする「苗の里親制度」をつくり。

・ただ眺めるだけでなく、暮らしに役立つ植物の活用を公園花壇を利用してアピールできるように、和洋を問わず植物の様々な活用法をセミナーなどを通じて学び。

・女性や子供たちも参加しやすい花壇づくりをきっかけに身近な環境への関心アップをアピールしました。

支出 : 500,000円 NPOからのこの事業への従事者 8名

●ミニヨコハマシティ in 大さん橋ホール開催

子ども青少年局、NPOミニシティ・プラスと共催という形で、子どもたちが理想のまちをつくるというイベント「ミニヨコハマシティ」を大さん橋ホール(中区)でおこないました。今回はこどものまち世界会議と同時開催のため、こどものまちEXPOという大きなプロジェクトのひとつとして、「ミニヨコハマシティ」を位置づけ、こどものまちEXPO実行委員会をつくり、年賀寄附金配分事業を受け、行いました。

こどものまちEXPOには全体で3000人の参加がありました。

12月にはこどものまちEXPOの報告会も行いました。

支出 : 4,300,142円 NPOからのこの事業への従事者 5名